

# 史談・史論

工藤 新一

来年の大河ドラマ「八重の桜」の主人公山本八重は会津藩出身である。幕末維新期の戊辰戦争では同藩の少年部隊・白虎隊に銃の扱い方を教え、自ら男装して最後まで新政府軍と戦い抜いた。その後京都に出て教育家の新島襄と結婚し同志社大を設立。日清、日露戦争では篤志看護婦として活躍した。

会津藩は「ならぬものはならぬ」と愚直なまでに至誠を貫き9代2255年にわたり徳川幕府をいわずに支えた。その会津と長崎の間には幕末ごろから深いつながりが生まれた。

長崎の会津藩御用達商人・足立仁十郎は長崎表聞役

## 長崎の中の会津



くどうしんいち 1953年長崎市生まれ。元長崎市職員。長崎龍馬会副会長、明治維新史学会。同市在住。

として700石で同藩に召し抱えられた。会津和人参(にんじん)を中国へ輸出し同藩へ多額の献金をした。本宅跡は現在の浜屋(長崎市浜町)である。足立を頼り幕

老河井継之助が来崎すると面倒を見て町を案内した。徳川慶喜の大坂城逃亡の責任を取らされて切腹した会津藩家老の嫡男・神保修理は長崎遊学中に坂本龍馬と会見した。修理の弟が初代長崎市長北原雅長と、官吏として長崎に赴任した神保厳之助である。

8代県令(名称変更により初代県知事) 日下義雄は実弟が自刃した白虎隊士石田和助である。着任早々手がけたのが長崎のししとき川をはじめ「三角溝」と呼

ばれている下水道の整備であり、本河内水源地の創設である。完成前に非職となつて後事を北原に託し長崎を去るが、長崎の公衆衛生に多大な貢献をした。また中川郷に桜数千本を植樹し中川カルルスと呼ばれる名勝地にした。来年1月に日下の功績をたたえ説明板を

ここに挙げた人物が大河ドラマに何人登場するのか楽しみに。長崎と会津をつなぐ絆コースを実施している。興味のある人はぜひ参加を。

(白虎隊の会津支部長)

# 幕末に英傑が続々

(白虎隊の会津支部長)